

副首都ビジョン～副首都・大阪に向けた中長期的な取組み方向～（2020年3月修正版）【概要】

第1章 副首都の基本的な考え方

1. なぜ副首都が日本に必要なか

- 国際競争力を持つ複数の拠点創出し、**国全体の成長**をけん引する。
- 東京以外にも日本を支える拠点都市を戦略的に確立し、**国土の強靱性**を高める。
- 地域の自己決定・自己責任に基づく**分権型の仕組みへの転換**を先導する。

2. 副首都・大阪が果たすべき役割

大阪のポテンシャルを活かして、次の4つの役割を果たす。

「西日本の首都」（分都）として、
中枢性・拠点性を高める

「首都機能バックアップ」（重都）として、
平時を含めた代替機能を備える

「アジアの主要都市」として、
東京とは異なる個性・新たな価値観を発信する

「民都」として、
民の力を最大限に活かす都市を実現する

こうした役割を果たすことで、

副首都・大阪は、**東京とは異なる個性・新たな価値観**をもって、
世界で存在感を発揮する「**東西二極の一極**」として、平時にも非常時にも
日本の未来を支え、けん引する成長エンジンの役割を果たすことをめざす。

大阪だけでなく、副首都圏として京阪神や関西圏までも視野に入れた取組みを進める。

第2章 副首都・大阪の確立、発展に向けた戦略

1. 戦略の考え方

<副首都の確立>

大阪自らが副首都に必要な「機能面」、それを支える「制度面」での取組みを進め、**2020年頃までに、副首都としての基盤を整える。**
この自らの取組みを推進力として、副首都化の取組みを支援する仕組みを国に働きかける。

<副首都としての発展>

グローバルな競争力を向上させるため、**万博や統合型リゾート（IR）**のインパクトも活用して、「**経済成長面**」での取組みを並行して進めていく。

※裏面の戦略の進め方参照

2. 「機能面」での取組み

【都市機能の高次化】

◆スマートシティ戦略の推進

【ハード面】

◆都市インフラの充実

- ◇高速道路ネットワークの充実
- ◇鉄道ネットワークの充実・強化
- ◇国際空港機能の強化
- ◇港湾の国際競争力強化

◆基盤的な公共機能の高度化

- ◇安全・危機管理機能の強化
- ◇生活インフラの最適化

【ソフト面】

◆規制改革や特区による環境整備

- ◇関西圏国家戦略特区の活用
- ◇関西イノベーション国際戦略総合特区の活用

◆人材育成環境の充実

- ◇府立大学・市立大学の統合による教育力向上
- ◇小・中・高等学校における教育の取組み

◆産業支援や研究開発の機能・体制強化

- ◇大阪産業技術研究所の創設
- ◇産業支援機能・体制の強化

◆文化創造・情報発信の基盤形成

- ◇文化創造基盤の拡充
- ◇都市魅力推進体制の充実・強化
- ◇都市ブランド向上に向けた魅力発信

3. 「制度面」での取組み

【大阪自らの改革】

- ◆副首都・大阪にふさわしい**新たな大都市制度の実現**
- ◆副首都・大阪の**住民生活を支える基礎自治機能（府内市町村）の充実**
- ◆副首都圏（京阪神・関西）の**都市機能を支える広域機能の充実**

【国への働きかけ】

- ◆国機関移転等の働きかけ
- ◆副首都化の取組みを支援する**仕組みの働きかけ**

4. 「経済成長面」での取組み

◆副首都・大阪の発展を加速させるインパクト

- ◇大阪・関西万博の開催
- ◇統合型リゾート（IR）の立地推進

◆副首都・大阪の**経済成長に向けた取組み**

【産業・技術力】健康・長寿を基軸とした**新たな価値の創出**

- ◇健康・医療関連分野の世界的なクラスター形成
- ◇ものづくりの基盤を活かしたイノベーション促進

【資本力】**世界水準の都市ブランドの確立**

- ◇世界に誇れる都市空間の創造
- ◇世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市の確立

【人材力】**内外から多様なプレーヤーが集い、活躍する場の創出**

- ◇多様な人材が活躍できるオープンでチャレンジングな環境整備
- ◇民間活動の促進の仕組みづくり

第3章 その先にあるもの～副首都として発展する未来の大阪～

「副首都・大阪」は、万博のレガシーやIRのインバウンド効果も活用して、「**東西二極の一極**」「**日本の成長エンジン**」の位置を確固たるものとし、持続的に大きな発展を遂げる未来を実現する。

大阪の未来像

- 世界の中で → **世界が注目する産業・文化・サイエンスの拠点**
- 日本の中で → **スーパー・メガリージョンの西の核**
- 住民にとって → **豊かで、利便性の高い都市生活**

第4章 今後の進め方

第2章の戦略に沿って副首都推進本部会議において取組みを確認しながら着実に進める。
その過程で、副首都ビジョンは必要に応じて見直しを行っていく。
市民・府民、さらには京阪神や関西圏をはじめ国内外に対する理解促進の取組み、国等へのアプローチなど、機運醸成を図る。

戦略の進め方

大阪自らの取組み

◆ 副首都として必要な機能とそれを支える制度 (機能面)

大都市としてのポテンシャルの充実にに向けた取組みを進め、国内の他の大都市よりも副首都に必要な都市機能が充実していること、非常時には首都の機能を担う能力もあることを明らかにする。

- スマートシティ戦略の推進 ○都市インフラの充実
- 基盤的な公共機能の高度化 ○規制改革や特区による環境整備
- 産業支援や研究開発の機能・体制強化
- 人材育成環境の充実 ○文化創造・情報発信の基盤形成

(制度面)

副首都としての都市機能の向上を制度面から支えるため、副首都にふさわしい大都市制度への改革、府内市町村の基礎自治機能の充実、府域を超えた広域機能の充実などの取組みを進める。

- 副首都・大阪にふさわしい新たな大都市制度の実現
- 副首都・大阪の生活を支える基礎自治機能の充実
- 副首都（圏）の都市機能を支える広域機能の充実

都市機能の充実により、成長を実現し、その果実を住民に還元

副首都の都市機能の充実を制度面で支える

大阪自らの取組みを推進力として国に働きかけ

◆ 副首都化の取組みへの支援を働きかける (制度面)

大阪自らの取組みを推進力にできるだけ早期に、国が副首都の必要性を認識し、その取組みを支援する仕組みが実現されるよう働きかけを行う。

- 国機関の移転等の働きかけ
- 副首都化の取組みを支援する制度の働きかけ（権限・財源移譲、規制改革等）

まずは、首都機能バックアップ拠点の位置づけの働きかけ

さらに、副首都（圏）の取組みを支援する制度の働きかけ

機能面・制度面の取組みが経済成長を後押し

◆ 副首都としての発展を遂げる (経済成長面)

万博やIRといったプロジェクトもインパクトとしながら、イノベーションの創出や都市ブランドの確立を通じてグローバルな競争力を向上させ、副首都としての発展を遂げる。

- 健康・長寿を基軸とした新たな価値の発信（健都、再生医療、IoTなど）
- 世界水準の都市ブランドの確立（うめきた、ベイエリアなど）
- 内外から多様なプレーヤーが集い、活躍する場の創出（グローバル人材育成、民間活動の促進など）

IR
国際観光拠点

大阪・関西万博

国内外からの認知の高まり

2020年頃までに
基盤を整える

副首都の確立

西日本の首都

首都機能のバックアップ

アジアの主要都市

民都

副首都としての発展

東西二極の一極

日本、世界の課題解決に貢献するグローバル都市としての成長を実現

成長の果実をもとに住民が豊かで利便性の高い都市生活を実現